

2 学期が始まりました。学校図書館では、蔵書管理システムのバージョンアップに伴い、個人貸出しカードを新たに作成しています。2 学期の開館が少し遅れる学校もあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。



読書感想文 Q & A

Q：なぜ、読書感想文を書かせるのでしょうか？

読書感想文を書かせると本嫌いになると言う人がいます。確かに、普段本を読まない子が感想文を書くことを目的に本を読まされたら、本嫌いになるでしょう。読むことや書くことが好きな子は、読書感想文は楽しいと思ったり、苦にならなかつたりしているようです。

様々な本と出会い、娯楽としての読書にも成長の糧となるような読書にも親しみ、読書により深い感想をもったり本に関連することを考えたりできる子、自分の思いや考えを文章で表すことができる子、読書感想文の指導は、そんな子を育成するのではないのでしょうか。

Q：どんな本を選んだらよいでしょう？

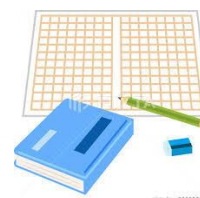
一概には言えませんが、一般に、名作のダイジェストや映画・アニメのノベライズは、あらずじ中心で描写が荒かったり、テーマが浅かったりする作品が目立つようです。対象図書が発達年齢より難しすぎても内容の理解が部分的だったり不十分だったりする場合があります。

同年齢の児童生徒にお薦めしたいような本を選ぶことにより、「けやき」が区内の児童生徒の読書生活の向上に役立つことでしょう。

Q：どのように指導すればよいでしょう？

その本を読んだことによりその子の成長や変容が感じられる感想文は、すぐれた作品が多く見られます。対象図書から離れず、その本で感じたことや考察したことなどを相手に伝わるように表現することが大切です。

中心に書きたい事柄を 2～3 選んで「初め・中・終わり」など構成を考え作文メモを作る、書き出しを工夫する、最後にその感想文の内容に適した題名を考えるなど、作文としての指導も大切です。



Q：どんなことに注意すればよいでしょう？

学校代表作品は、誤字・脱字・文のねじれなどがなく必ずチェックしてください。人権や著作権を侵害していないかは、特に細心のチェックをお願いします。

区長賞・優秀賞の 12 点は、東京都読書感想文コンクールの新宿区代表作品となります。小学校低学年 800 字、中・高学年 1200 字、中学校 1500 字を十分に使って表現させてください。

学校図書館の活用で「主体的・対話的で深い学び」を

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、児童生徒が学びを深めるために必要な資料の選択や情報収集、教員の授業づくりや教材準備等を支える学校図書館の役割が重要となっていることから、今回、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童（生徒）の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童（生徒）の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。」（小・中学校総則）と規定を充実させました。

これは、新学習指導要領のパブリックコメントで「学校図書館の活用について、記述を充実してほしい。」という意見内容に対する回答です。

「主体的・対話的で深い学び」を推進するにあたり、学校図書館を益々活用していきましょう。